

## 8 題目石(月心坊跡)

(西花尻615東＝下池西の山中)



東側の祠は持地妙正大明神である。昭和35年には祠の説明札(木の札)があった。(きびのさとNo.28による)

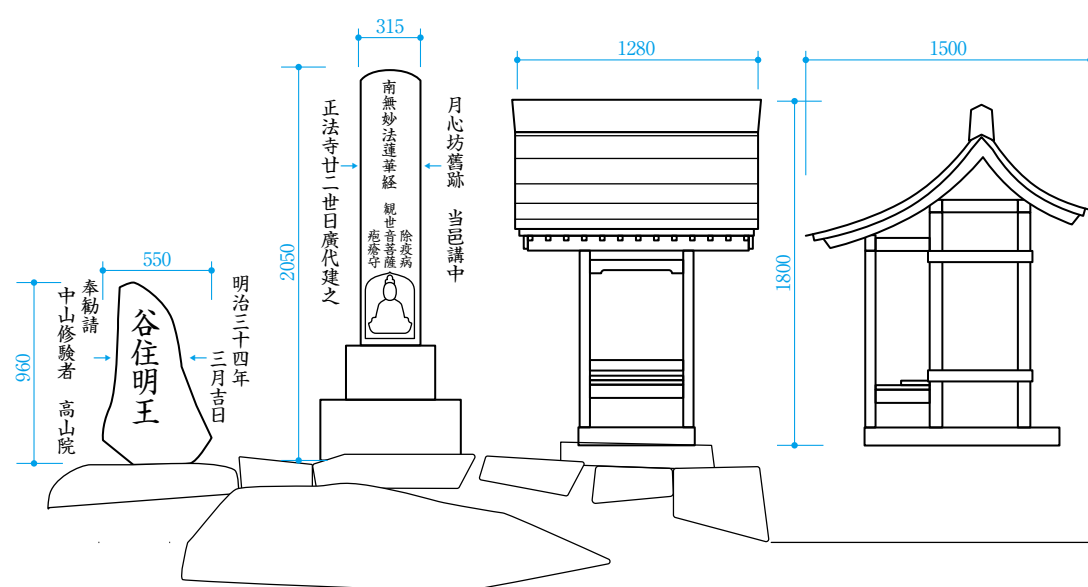
妙正大明神は日蓮宗の疱瘡神である。中央の題目石は二十四世日廣上人建立とあるので明治時代初期のものであろう。

この石柱の下部に観世音菩薩座像が刻まれており、「観音古墳」の名はこれに由来する。古老の話では、この碑が「疱瘡」に効くという言い伝えがあり、子供の頃石を削りに来たという。西側の「谷住明王」の碑の詳細は不明。

藤原成親が配流された三つの坊(正林坊、法住坊、月心坊)の内のひとつ、月心坊のあった場所。[5](#)正法寺を参照

月心坊は観音古墳の下の平地に建てられ、ここが庵の跡地である。現在は古墳は盗掘され、塚石は散乱している。日廣上人が成親の遺徳をしのび、700年たつてこの碑を建てた。

説明札(今はない)



裏面

持地妙正大明神

千時安政四丁巳歳七月吉日 願主 当邑奥谷信者  
南無妙法蓮華經 奉勸請持地大士 正法寺 廿一世 日廣

安政4年(1851)